

## 授業科目一覧

### 《美容学科》(昼間2年課程)

授業科目	時間数	実務経験のある教員の授業数	省令で定める授業時数
関係法規・制度	32		
衛生管理	96		
保健	96	※40時間	☆40時間
香粧品化学	64		
文化論	64	※52時間	☆52時間
美容技術理論	156	※156時間	
運営管理	32		
美容実習	912	※912時間	
生活文化と作法	32		
造形心理学と表現	32	※32時間	☆32時間
保健体育	32		
接客法	33	※24時間	☆24時間
日本文化(伝承美)	63		
総合学習	62		
ヘアカラーリング <sup>△</sup>	63	※63時間	
メイクアップ <sup>△</sup>	96		
シャンプー&ブロー	63	※63時間	
総合技術	93	※93時間	☆12時間
選択実習	66		
	2087	※1435時間	☆160時間

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
関係法規・制度	32時間/16回	安原千晶 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
<p>国家試験の対策を念頭に置き、まずは理解度をあげて知識を安定させる。小テストの反復により暗記をも定着させていく。後期は国家試験対策として出題確率の高いものからどんどん理解させていく。さらに高得点をとれるよう様々な問題を解くことで、筆記試験合格を目標とする。</p>			
<b>【授業内容】</b>			
<p>理容師法・美容師法による規制と行政による指導監督制度およびその他の関連法規を教育します。また、法規・諸制度を教育するためにその前提となる法制度、衛生行政についての基礎知識についても学びます。</p>			
<b>【授業計画】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法とは何かの説明から条例規則までの説明・問題とまとめ</li> <li>2 衛生に関する説明と行政機関の説明・問題とまとめ</li> <li>3 理・美容師法についての説明と定義、免許の説明・問題とまとめ</li> <li>4 行政処分に関する説明・問題とまとめ</li> <li>5 管理美容師に関する説明・問題とまとめ</li> <li>6 昨年度の復習 問題 解説・管理美容師についてのまとめ 問題</li> <li>7 前回の復習 問題 解説 と 理美容所の開設についてのまとめ 問題 開設者が講ずべき措置についてのまとめ 問題</li> <li>8 前回の復習 問題 解説 と 理美容所以外での業務、立ち入り検査についてのまとめ問題 違反者に対する処分についてのまとめ 問題</li> <li>9 前回の復習 問題 解説 と 罰則についてのまとめ 問題 関連法規についてのまとめ 問題</li> <li>10 全範囲のまとめ 問題 解説</li> <li>11 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う</li> <li>12 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う</li> <li>13 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う</li> <li>14 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う</li> <li>15 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う</li> <li>16 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う</li> </ol>			
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験(1年後期、2年前後期の3回)により評価する。</p>			
<b>【授業の特長】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。</p>			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
衛生管理	96時間/48回	池田凡子 他	

## 【授業の到達目標】

理容・美容業務に携わるにあたり、感染を防止する手段として消毒法を論理的に理解する。感染症について理解を深める。公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得を促すことで、公衆衛生の向上に資する努力義務を理解する。国家試験に合格できる学力能力を習得する。

## 【授業内容】

理容業・美容業に携わるものとして、近代の公衆衛生を理解し、人の健康や感染症を予防することに繋げる。また、感染症についての的確な知識や技能を会得する。感染を防止する手段である消毒法を論理的に学び、理解する。

## 【授業計画】

1	感染症	発見の歴史		
		法律・感染症の分類		
		侵入経路による分類	消毒法	種類
		病原体別による分類		消毒に必要な条件
		微生物の種類と構造		消毒法各論
		微生物の増殖と環境の影響		消毒薬の概要
		微生物の病原性と人体の感受性		器具の使い方
		汚染・感染・発病と常在細菌叢		消毒薬希釈法
2～27		免疫・予防接種・感染源		理容所・美容所の消毒
		感染経路・宿主の感受性		消毒法・復習
		感染症の予防の3原則		
		空気・飛沫を介する感染症		
		飲食物を介する感染症		
		血液を介する感染症		
		動物を介する感染症		
		感染症・復習		
28		公衆衛生の意義と課題、公衆衛生の歴史		
29		理容師・美容師の公衆衛生、保健所と理容業・美容業		
30		保健		
31		環境衛生の概要		
32		空気環境		
33		衣服・住居の衛生		
34		上・下水道と廃棄物		
35		衛生害虫とネズミ		
36～39		環境保全		
40～41		公衆衛生・環境衛生総復習		
42～48		感染症・消毒・公衆衛生の総復習		

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験6回(1前期2回・1後期2回・2前期1回・2後期1回)により評価する。

## 【授業の特長】

講義形式を基本とするが、実験や国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※保健(皮膚)	48時間/25回	※☆小塚 友美 他	

## 【授業の到達目標】

美容師・理容師として社会に求められている知識と責任を習得することを目的とする。また理容師美容師国家試験に頻出の内容について詳しく取り上げることで、全体の合格率向上を目指す。

## 【授業内容】

皮膚・毛髪などを主とする、人体の構造、機能に関する科学的、系統的知識を理容・美容技術と関連させながら理解し、学ぶしていく。

## 【授業計画】

- 1 「1 皮膚の構造」・皮膚の表面、皮膚の断面、表皮についての授業
- 2 「1 皮膚の構造」・表皮と真皮の境～皮膚の部位差についての授業と第1章の練習問題
- 3 「2 皮膚付属器官の構造」・毛についての授業
- 4 「2 皮膚付属器官の構造」・毛について(後半)、脂腺、汗腺、爪についての授業と練習問題
- 5 「3 皮膚の循環器系と神経系」・第3章の授業、第2章と第3章の練習問題
- 6 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・対外保護作用～知覚作用と皮膚反射についての授業
- 7 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・分泌排泄作用～免疫・解毒・排除作用についての授業
- 8 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・ビタミンD形成作用～爪のはたらきについての授業と第4章の練習問題
- 9 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚と全身状態～皮膚と体内病変についての授業
- 10 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚の水分と脂の状態についての授業
- 11 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚・付属器官とホルモン～皮膚の保護と手入れについての授業
- 12 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・毛の保護と手入れ～おしゃれによる皮膚トラブルについての授業
- 13～14 期末試験対策 前期期末試験直前の復習
- 15 「6 皮膚と皮膚付属器官の疾患」・皮膚の異常とその種類～皮膚疾患の治療法についての授業
- 16 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹についての授業
- 14 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・日光皮膚炎～湿疹患者のケアについての授業
- 18 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・口唇の疾患～下肢静脈瘤についての授業
- 16 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・分泌異常による皮膚疾患についての授業
- 20 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・化膿菌による皮膚疾患～真菌による皮膚疾患についての授業
- 21 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・衛生害虫による皮膚疾患～感染症の皮膚疾患の予防についての授業
- 22 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・毛と爪の疾患～皮膚の腫瘍についての授業
- 23～25 国家試験対策

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(各学年・前期・後期)により評価する。

## 【授業の特長】

講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。  
講師は、企業健康管理室や内科クリニック業務で得た知識と経験をもとに身近な経験談による分かりやすい授業を展開する

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
保健(人体)	48時間/24回	1年・新木 美絵	2年・伊藤 秀明

## 【授業の到達目標】

一般目標(GIO):ヒトの体についてその成り立ちと働きを説明できるとともに、理容・美容の現場においてその知識を踏まえ、適切に効率よく施術を行うことができる。

到達目標(SBO):[~7月]身体の構成とその動きを理解し、特に頭部への施術を安全に効率よく実施できる。  
[~12月]身体内の情報の動きを理解し、お客様が安心して施術を受けられるよう配慮できる。  
[~2月]身体内の物質の動きを理解し、特に体幹への施術を安全に効率よく実施できる。

## 【授業内容】

人体における基本的な構造と生理的機能を理解し、現場に適用できるようにする。  
また生命に対する倫理観を育てる。

## 【授業計画】

- 1 人体各部の名称・頭部、顔部、頸部の体表解剖学
- 2 細胞から系統まで・体液のあらまし
- 3 血液のあらまし・骨の種類と構造 骨の連結
- 4 骨格器系とそのはたらき・骨の保健
- 5 筋の種類とその特徴・主な骨格筋とそのはたらき、顔面筋とその表情運動
- 6 試験対策
- 7 試験復習
- 8 神経系の成り立ち・中枢神経とそのはたらき
- 9 末梢神経とそのはたらき・神経系の保健
- 10 神経系・視覚
- 11 聴覚・平衡感覚 味覚 嗅覚 皮膚感覚 深部感覚と内蔵感覚
- 12 試験対策
- 13 試験復習
- 14 呼吸器系(1):呼吸器の構造 呼吸器系(2):呼吸のしくみ
- 15 循環器系(1):血液の成分 循環器系(2):心臓の構造と機能
- 16 循環器系(3):大循環と小循環 循環器系(4):リンパ管と免疫系
- 17 消化器系(1):消化器の構造 消化器系(2):消化の流れ
- 18 消化器系(3):消化酵素 消化器系(4):老廃物と泌尿器系
- 19 身体内の物質移動のまとめ(試験対策演習) 2年次前期・学力能力判定期末試験
- 20 身体内の物質移動のまとめ(試験解答解説) 身体の構成と動作のおさらい(1)
- 21 身体の構成と動作のおさらい(2) 身体内の情報伝達のおさらい(1)
- 22 身体内の情報伝達のおさらい(1) 2年次後期学力能力判定期末試験 人体の構造・機能のまとめ(試験解答解説)
- 23 身体の構成と動作(国家試験対策) 身体内の情報伝達(国家試験対策)
- 24 身体内の物質移動(国家試験対策) 人体の構造と機能の総合演習(国家試験対策)

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

## 【授業の特長】

講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
香粧品化学	64時間/32回	小川 斐女 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・香粧品の社会的意義を学ぶとともに原料について、その分類・配合目的・対象品目を説明できる。</li> <li>・基礎香粧品およびメイク用香粧品、頭皮用香粧品、芳香製品についての種類・特徴を説明できる。</li> <li>・国家試験に合格できる学力能力を習得する。</li> </ul>			
<b>【授業内容】</b>			
<p>理容・美容の業務でお客様に使用する医薬部外品等の薬剤を理解する。各種香粧品の分類・成分・性状・特徴及びその対象となる人体各部の性質について理解する。また、使用目的に応じて、適切な香粧品を選び安全かつ効果的に使用することを学びます。</p>			
<b>【授業計画】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 香粧品の社会的意義と品質特性・香粧品の規制</li> <li>2 香粧品の安定性と取り扱い上の注意・香粧品と安全性</li> <li>3 香粧品の対象となる人体各部の性状1・香粧品の対象となる人体各部の性状2、水性原料</li> <li>4 油性原料1・油性原料2</li> <li>5 界面活性剤1・界面活性剤2</li> <li>6 高分子化合物・色材1</li> <li>7 色材2・香料</li> <li>8 その他の配合成分・ネイル・まつ毛エクステンション用材料</li> <li>9 香粧品原料のまとめ(試験対策)</li> <li>10 試験解答解説</li> <li>11 皮膚洗浄用香粧品1・皮膚洗浄用香粧品2、化粧水</li> <li>12 クリーム・乳液1・クリーム・乳液2</li> <li>13 その他の基礎香粧品・ベースメイクアップ香粧品1</li> <li>14 ベースメイクアップ香粧品2・ポイントメイクアップ香粧品1</li> <li>15 ポイントメイクアップ香粧品2・シャンプー剤</li> <li>16 スタイル剤・パーマ剤</li> <li>17 ヘアカラー製品1・ヘアカラー製品2、育毛剤</li> <li>18 芳香製品・特殊香粧品</li> <li>19 各種香粧品のまとめ1(試験対策)・各種香粧品のまとめ2(試験対策)</li> <li>20 頭皮毛髪用香粧品(3): 香粧品における酸化・還元</li> <li>21 頭皮毛髪用香粧品(4): パーマネントウエーブ用剤・頭皮毛髪用香粧品(5): 香粧品における酸・塩基</li> <li>22 頭皮毛髪用香粧品(6): ヘアカラー剤・頭皮毛髪用香粧品(7): 香粧品とその成分</li> <li>23 頭皮毛髪用香粧品(8): 育毛剤と除毛剤・特殊香粧品(1): 香粧品とその性状</li> <li>24 特殊香粧品(2): 芳香製品・頭皮毛髪用香粧品のまとめ(試験対策演習)</li> <li>25 頭皮毛髪用香粧品のまとめ(試験解答解説)</li> <li>26 物理化学の基礎のおさらい・香粧品の規制と原料のおさらい(1)</li> <li>27 皮膚用香粧品の成分と適用のおさらい(1)(2)</li> <li>28 頭毛用香粧品の成分と適用のおさらい(1)(2)</li> <li>29 各種香粧品のまとめ(試験対策演習)</li> <li>30 各種香粧品のまとめ(試験解答解説)</li> <li>31 香粧品の規制と原料(国家試験対策)・皮膚用香粧品の成分と適用(国家試験対策)</li> <li>32 頭毛用香粧品の成分と適用(国家試験対策)・香粧品化学の総合演習(国家試験対策)</li> </ol>			
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(各学年・前期・後期)により評価する。</p>			
<b>【授業の特長】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、実験や国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。</p>			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※文化論	64時間/32回	※☆①財部 律子・※☆②富安 由真 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
日本の理容美容の歴史、西洋・日本のファッション文化史・和装・洋装の礼装を理解し、国家資格の取得を目標とする。			
<b>【授業内容】</b>			
さまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を社会背景や時代の要請と結びつけて学びます。流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすために、トータルバランスを含めて理解する。			
<b>【授業計画】</b>			
1	総論・古代エジプト		
2	古代ギリシャ・ローマ・ゲルマン		
3	中世ヨーロッパ		
4	ヨーロッパ16・17世紀		
5	ヨーロッパ18世紀		
6	ヨーロッパ19世紀		
7	ヨーロッパ1910年から1920年代		
8	ヨーロッパ1930年から1940年代		
9	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
10	イントロダクション、日本の理容業・美容業の歴史(発生～現代)		
11	ファッション文化史 日本編(縄文・弥生・古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代)		
12	ファッション文化史 日本編(平安末・鎌倉・室町・戦国時代・戦国末・安土桃山時代)		
13	ファッション文化史 日本編(江戸時代)		
14	ファッション文化史 日本編(江戸時代・明治・大正・昭和20年まで)		
15	ファッション文化史 日本編(明治・大正・昭和20年まで ②)		
16	ファッション文化史 日本編(1945年～1970年代)		
17	ファッション文化史 日本編(1980年代～2000年以降)		
18	まとめ		
19	学力能力判定試験の解説による課題の理解・錯視について		
20	1940年から1950年代	1960年代	
21	1970年代		
22	1980年代		
23	1990年代から現在		
24	ヨーロッパ文化史の復習		
25	和装・洋装の礼装		
26	日本編文化史の復習①		
27	日本編文化史の復習②		
28	日本編文化史の復習③		
29	総合学習		
30	学力能力判定試験の解説による課題の理解		
31	国家試験対策・まとめ①		
32	国家試験対策・まとめ②		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。			
<b>【授業の特長】</b>			
講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 ①美容室勤務、ヘアメイク、服飾系専門学校講師の経験から、ファッション文化史について必要とされる知識を教授する。 ②7年間に及ぶ海外でのデザインワークをいかし、ファッション文化史についてグローバルな授業を展開する。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※美容技術理論	156時間/133回 1年次・92時間/80回 2年次・64時間/53回	※渡辺 れほな 他	

## 【授業の到達目標】

理論に基づいた正確な技術の習得の為に、美容技術の基礎となる理論を学び、国家資格取得を目標とする。

## 【授業内容】

技能の習得にあたり、各技術の基礎を確実に身につけるためのものである。具体的にいろいろな技術を学ぶ前に何のためにその技術を学ぶのかを美容技術理論で裏付けし、理解するものである。

## 【授業計画】

1～3	序章・1章美容用具				
4～9	ヘアカッティング	↓			
10～15		↓			
16	パーマメントウェービング	↓			
17	シャンプーイング	↓	↓		
18～29					
30～35	総合学習				
36	学力能力判定試験				
37～40	学力能力判定試験の解説によるまとめ				
41	エステティック	↓			
42	メイクアップ	↓			
43～48					
49～52					
53	ネイル技術	↓			
54	ヘアカラーリング	↓			
55～65					
66					
67					
68～70					
71～73					
74～77	総合学習				
78	学力能力判定試験				
79～80	学力能力判定試験の解説によるまとめ				
81～83	ヘアデザイン				
84～88	ヘアセッティング				
89～101	総合学習				
102～107	学力能力判定試験対策				
108～109	学力能力判定試験				
121～126	総合学習				
127	学力能力判定試験				
128	学力能力判定試験の解説によるまとめ				
129～133	国家試験対策				

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

## 【授業の特長】

講義形式を基本とするが、実験や国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。  
担当教員は、美容師としての経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術の裏づけとなる理論、接客力を教授する。



# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
運営管理	32時間/16回	川端 沙織	

## 【授業の到達目標】

経営者の視点を理解し、従業員として活躍するためにも、また将来自らが経営者として、活躍するためにも重要であることを理解し、国家試験に合格できる学力能力を習得する。

## 【授業内容】

「運営管理」では、よりよい理容・美容サービスの提供と顧客満足について学びながら、将来のキャリアプランを構築していく授業です。

## 【授業計画】

- 1 経営とは・経営者とは
- 2 理容業・美容業の経営について・資金の管理(資金管理の重要性)
- 3 資金の管理(コストを管理する、税金について)・人という資源(人の能力を高める)
- 4 人という資源(給与、評価、労働者の権利)・健康・安全な職場環境の実現(健康管理)
- 5 健康・安全な職場環境の実現・従業員としての視点から(社会保険)
- 6～7 期末試験対策・期末試験解説
- 8 キャリアプランの重要性・自分のキャリアプランを作ろう
- 9 サービス・デザイン(顧客が求める価値とは)(価値の多様性について)
- 10 マーケティング(マーケティング・ミックスの要因)(サービスのシステム化)
- 11 サービスにおける人の役割(接客の実践)(接客におけるトラブル)
- 12 期末試験対策・期末試験解説
- 13～14 復習総まとめ
- 15～16 国家試験対策

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験3回(1後期・2前期・2後期)により評価する。

## 【授業の特長】

講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※美容実習	912時間/381回 1年次・408時間/177回 2年次・504時間/204回	※七澤 裕 他	

## 【授業の到達目標】

理容技術理論に基づき、理容師として必要な技術の修得をめざす。  
また国家試験に合格できる技術能力を習得する。

## 【授業内容】

美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒等適切な実施方法を学ぶ。  
個々の客の要望に応じた美容技術を提供出来るよう、総合的な基礎を身に付ける授業を展開する。

## 【授業計画】

1～2	ヘアcutting		
3～11	(ワンレングス) ワインディング(オールパーパス)		
12～21	↓	ヘアセッティング(カール)	
22～42	↓	↓	コンテスト対策
43～72	↓	↓	サマーフェスタ作品制作
73～75	技術能力判定試験		
76～78	技術能力判定試験の解説によるまとめ		
79～84	ヘアcutting(セイムレングス)	ヘアセッティング(7段ウェーブ)	
85～141	国試課題 カット	ワインディング(1/2オフ)	コンテスト対策
142～149	↓	↓	エステティック技術
150～152	技術能力判定試験		
153～155	技術能力判定試験の解説によるまとめ		
156～177		国試課題 ワインディング	実務実習
178～242	国試課題 カット	↓	国試課題 オールウェーブ ネイル技術
243～264		↓	サマーフェスタ作品制作
265～267	技術能力判定試験		
268～270	技術能力判定試験の解説によるまとめ		
271～302	↓	↓	コンテスト対策
303～305	技術能力判定試験		
306～308	技術能力判定試験の解説によるまとめ		
309～373	国試対策(第1課題)	国試対策(第2課題)	
374～381	国試対策(メイク・着付け・エステ・ネイル)		

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末技術能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

## 【授業の特長】

実習形式を基本とするが、理論性の確立のための講義、国家試験に向けた演習、技術発表等の実技も適宜取り入れている。担当教員は、美容師としてのサロン経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
生活文化と作法	32時間/15回	別府 美由樹 他	

## 【授業の到達目標】

日常生活の中での礼儀作法やマナーを、学校の中での集団生活を通じて習得することを目標とする。  
基本的社会規範やコミュニケーション技術を習得する。

## 【授業内容】

美容師として、社会人として、一般的に身に付けておきたい常識やマナーについて学び、集団の中での個々の役割、立場、振る舞いなどを考えていく授業。

## 【授業計画】

- 1 掃除の重要性
- 2 モラルについての研究
- 3 ツキを呼ぶ魔法の言葉・美容で感動を与える
- 4 美文字・ボールペンで美しい字を書く・縦書き・横書き
- 5 漢字検定・ビジネスシーンでよく使う漢字の読み書き
- 6 前期振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて・レポート①
- 7 作文(小論文)の書き方
- 8 二十四節季・日本の四季
- 9 手紙の書き方・時候の挨拶・季節の挨拶・お礼状と縦書き封筒
- 10 履歴書の書き方・面接時の注意点
- 11 後期振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて・レポート②
- 12 履歴書復習・自己PR文の書き方・就活対策
- 13 テーブルマナー研修
- 14 ビジネスマナー①・敬語・ビジネス語・謝罪の仕方
- 15 ビジネスマナー②・名刺の渡し方・来客対応・席次・お茶の出し方

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する。

## 【授業の特長】

講義と演習を基本形式とし、実技を適宜取り入れる。

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※造形心理学と表現	32時間/17回	※☆①藤田 道子・※☆②富安 由真	
<b>【授業の到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デッサンを通してものを正確にみる力を養い、的確な判断(一人一人に合う髪型等について)が出来るようになる。</li> <li>・ヘアデザイン画において創作的な技術を身に付け、ヘアデザイン画が描けるようになる。</li> <li>・色彩論の基礎を学びながら、実践的な造形表現力を身に付けることを目的とする。</li> </ul>			
<b>【授業内容】</b>			
デッサンの基礎技術を学ぶ。 色彩の心理的効果や視覚効果、配色・コーディネート基礎などを学びつつ、混色のやり方や色彩構成などの基礎技術を学ぶ。			
<b>【授業計画】</b>			
1	授業目的と流れ、課題、道具、ヘアデザイン画、デッサンについての説明 顔のパーツの位置づけの数字的思考方について説明・目と鼻の説明、教科書のトレース練習		
2	唇と輪郭の説明、トレース練習		
3	斜め、横など正面以外の顔の描き方について説明・それぞれの角度をトレース練習		
4	髪の毛の描き方の説明、トレース練習。教科書を参考に顔と髪を描き提出		
5	課題説明、課題の下準備、構図についての説明(参考資料引用)・下準備が終わり次第描き始める		
6	課題の続き。描く上でのポイントなど個別での指導も行う		
7	課題の続き。早く進んでいる生徒へヘアデザイン画再度説明、作成		
8	課題の続き。仕上げのポイントなど説明、仕上げて提出		
9	イントロダクション、色の仕組みについて・トーン表の作成		
10	ミニテスト、色相・明度・彩度のプリント作成・色の心理的効果について		
11	ミニテスト、色の視覚効果(対比・同化)・錯視について(「美容とデザイン」について含む)		
12	ミニテスト、配色について・Work Paperの作成		
13	ミニテスト、Work Paperの作成・色相環の作成、混色について		
14	色相環の作成・色彩構成		
15	色彩構成		
16	世界の様々な造形表現について、色彩構成・色彩構成発表		
17	復習・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、下記内容により評価する。 (1前期)教科書を参考にした顔、髪、デッサンを提出 (1後期)課題作品 A3イラストボードにデッサン(写真を参考。主に顔、髪を中心としたもの) (2前期)各提出物、ミニテスト及び授業態度により総合的に評価			
<b>【授業の特長】</b>			
講義1/3、実技2/3として構成している。2名の担当教員は、①美術館勤務・大学の講師経験から形が持っている心理作用を分かりやすく教授する。 ②7年間にわたる海外でのデザインワークをいかし、グローバルな授業を展開する。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
保健体育	32時間/12回	中村 雅江	
<b>【授業の到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動を通して、公正、協力、責任などの態度を身に付ける。</li> <li>・体育の授業力向上に向け、自己学習課題を明確にもち、主体的に学習に取り組む。</li> </ul>			
<b>【授業内容】</b>			
綱引き、バレーボール、ドッジボール、バスケットボール、バドミントン競技を行い、チームを強化し、チームワークのあり方を学んでいく。			
<b>【授業計画】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 綱引きを通して、行動力、協力体制を培う</li> <li>2 綱引き競技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する</li> <li>3～4 バレーボール競技</li> <li>5～6 ドッジボール競技</li> <li>7 綱引きを通して、自己課題への到達を目指し、チームの役割を担う力を養う</li> <li>8 綱引き競技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する</li> <li>9～10 バスケットボール競技</li> <li>11～12 バドミントン競技</li> </ol>			
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を評価する。 全時間出席90点、1～2時間欠・80点、2～4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、授業における発言や態度(10点)を評価する。			
<b>【授業の特長】</b>			
全時間実技を通して構成している。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※接客法	33時間/11回	※☆佐々木 久仁江 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
・ビジネスマナーを理解し、理美容業における接客の技術を習得し、サロンで必要不可欠なコミュニケーション能力を身に付け、実務実習にて高評価を得ることを目標とする。			
<b>【授業内容】</b>			
サロンの接客業務を学び、ロールプレイングにより、接客スキル向上させていく。また、ブレinstーミングにより、接客に対する思いを共有していく。			
<b>【授業計画】</b>			
1	サービス接遇の必要性の理解・挨拶・お辞儀		
2	言葉遣い・プラス言葉とマイナス言葉・敬語・接客用語・よさね言葉		
3	立ち振る舞い・身だしなみ		
4	電話対応		
5	伝える力		
6	コミュニケーション能力		
7	レセプション業務		
8	実務実習時の課題提示・職場の基本モラル		
9	実務実習報告・カウンセリング技術		
10	カウンセリング技術		
11	マナー研修・人に与える印象と接客マナー		レポート提出
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、最終回のレポートにより評価する。			
<b>【授業の特長】</b>			
全体の2/3を講義、1/3を実習として構成している。 担当教員はサロンでの美容師人材育成の経験をいかし、現場で必要とされる知識、接客力を教授する。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
日本文化(伝承美)	63時間/26回	齊藤 昌利 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
立て矢帯、ふくら雀帯、二重太鼓帯の帯結びの技術を習得する 新日本髪のかい方を学び、髷・鬢・前髪・髷の位置、構成また、面・全体の仕上がりを意識した日本髪が結えることを目標とする。			
<b>【授業内容】</b>			
日本の伝承美である着付と日本髪の基礎を学び、自己表現力を培い、着付けの帯の結び方や日本髪を表現していく。			
<b>【授業計画】</b>			
1	着物着付け、小物、着物のたたみ方、着物着付け理論理解		
2～23	<b>帯結び</b> ↓ 二重太鼓帯の説明と実践 立て矢帯の説明と実践 ふくら雀帯の説明と実践 着付けデモンストレーション 3種帯結び展示・練習 試験	<b>日本髪</b> ↓ 黒ゴムの縛方・ローラーの巻き方 逆毛の立て方 梳き毛の作り方 土台の作り方 髷の作り方 鬢の作り方 前髪の作り方 髷の作り方 バランス強化 タイムアップ強化 試験	
24	着付けデモンストレーション見学		
25	着物の種類・帯の種類について展示・グループに分かれ実践		
26	かつら・髷種類について展示・グループに分かれ実践		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、帯結び・日本髪共に作品により構成の理解度を評価する。			
<b>【授業の特長】</b>			
実習形式を基本とする。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
総合学習	62時間/27回	星野 愛子 他	

## 【授業の到達目標】

美容師としてだけでなく、社会貢献できる人材の育成を目指すことを目標とする。

## 【授業内容】

現代の社会問題について、現況と解決策を考え、社会との関わりを学習する。

## 【授業計画】

- |    |  |       |
|----|--|-------|
| 1  | 江ノ島ビーチクリーン・AED講習                         | レポート① |
| 2  | 防災体験デー参加:野方警察                            |       |
| 3  | 悪徳商法被害防止講習:東京都消費生活総合センター                 |       |
| 4  | インターネット・SNSのトラブル防止講習:東京都消費生活総合センター       |       |
| 5  | 年金セミナー:中野年金事務所                           |       |
| 6  | 選挙セミナー:選挙管理委員会                           |       |
| 7  | 租税教室 東京都租税教育推進協議会                        |       |
| 8  | 防災体験デー参加:野方警察                            |       |
| 9  | 研修旅行・事前学習①フランスについて(オリエンテーション・日程)         |       |
| 10 | 研修旅行・事前学習② 交流会・WELLAアカデミー研究              |       |
| 11 | 研修旅行・事前学習③ パリの芸術・ルーブル美術館について(自由行動案)      |       |
| 12 | 研修旅行・事前学習④ フランス・パリの歴史・文化・パリ市街地について(最終日程) |       |
| 13 | 研修旅行・事前学習⑤ 交流会準備・練習                      |       |
| 14 | 研修旅行・事前学習⑥ 交流会準備・リハーサル                   |       |
| 15 | 海外研修 パリにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を学ぶ           | レポート② |
| 16 | 海外研修 まとめ・振り返り                            |       |

17～27 国試対策・筆記模擬

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する。

## 【授業の特長】

講義と実技を基本形式とし、演習を適宜取り入れる。



# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※ヘアカラーリング	63時間/29回	※林 拓也 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
ヘアカラーの技術・知識を習得し、ロレアル検定試験合格を目指す。 ヘアショーに於いてモデルのカラーリングを施術を行い、準備やモデルへの配慮などウィッグとの違いを学び得る。			
<b>【授業内容】</b>			
ヘアカラーの基礎技術・知識を習得し、ロレアル検定資格を取得します。 応用の技術取得後、モデルのカラーリングを施術を行い、即戦力となる知識・技術・接客力を学び得る。			
<b>【授業計画】</b>			
1	カラーの基本知識 色の種類 色の三属 毛髪知識 髪色の変化【チェックテスト】		
2	種類と染毛原理 アプリケーション リファレンス【チェックテスト】		
3	筆記テスト		
4～5	検定準備・カット		
6～7	トリートメント剤による塗布練習		
8～10	ブリーチ剤による塗布練習		
	ロレアル検定試験 ブリーチ(1剤60g:2剤120g)		
11	検定試験の振り返り・復習・ホイルワーク理論		
12	ホイルワーク ベーシック テクニックの説明と実践		
13	グラデーションカラーの説明と実践		
14	オンカラーの説明と実践		
15～17	スライシングの説明と実践		
18～21	リタッチカラーの説明と実践		
22	相モデルによるヘアカラーの実践		
23	ヘアカラーのデッサンと行程		
24	ブリーチの実践(全頭またはホイルワーク)		
25	オンカラーの説明と実践		
26	スタイリング・作品評価・修正		
27～29	国家試験筆記・対策		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、ロレアルアプリケーションチェック表と検定試験により評価する			
<b>【授業の特長】</b>			
実習を基本形式とし、講義・演習を適宜取り入れる。 担当教員は美容室でのヘアカラー経験をいかし、現場で必要とされるヘアカラーの知識、技術、接客力を教授する。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	美容学科 1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
メイクアップ	96時間/41回	渡辺 れほな 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
<p>メイクアップの基礎理論として技術を習得し、メイクアップ検定3級資格取得を目標とする。 まつ毛エクステーションの技術の習得と併せて衛生や保健を理解し、まつ毛エクステーション実技検定3級取得を目標とする。</p>			
<b>【授業内容】</b>			
<p>顔の形態学的な観察から基本となるナチュラルメイクを習得する。色彩心理学等を組み合わせて、創造性や表現力を身につける。また、メイクアップの基礎を踏まえて、特殊メイクへの応用に繋げる。 まつげエクステーションにおいては、眼及びまつ毛などの眼付属器官の構造及び機能について知識と技術を習得する。</p>			
<b>【授業計画】</b>			
1	教材準備、皮膚のメカニズムと基礎化粧品について、box中身準備、机上道具配置、モデル取り扱い		
2	スキンケア	オイルクレンジング～スキンケア 顔全体・ポイント(口/目/眉)	
3～4	ベースメイクアップ		
5～7	ポイントメイクアップ		
8	技術能力判定試験・解説まとめ		
9～11	模擬練習 / 試験要項説明		
12	メイクアップ検定試験3級試験		
13	試験解説によるまとめ/ ポイントメイク応用		
14～15	メイク発表会作品制作		
16	まつエクとは概要・衛生・目とまぶた/商材説明とテーブルセッティング		
17	アレルギーについて・カウンセリングとアフターケア/テープワーク		
18	施術の手順・テープワーク復習・プレケア・ツィーザーワーク・オフ		
19～24	ツィーザーワーク復習・装着		
25	筆記対策① 小テストと解説・まつエクのデザイン		
26～28	タイムアップトレーニング・チェック ・筆記小テスト		
29～32	模擬試験	筆記対策②小テストと解説	
33	検定試験 解説によるまとめ		
34	デモンストレーション見学・特殊メイク4種・ヘアメイクになるには		
35	テクニカルの基礎		
36	ステージメイクアップ		
37	舞妓風化粧		
38	歌舞伎風の化粧		
39	キャッツ風のメイク		
40	特殊なメイク①(老人メイク)メイクアップの基礎をふまえて、特殊メイクの応用を行う。		
41	特殊なメイク②(傷・アザ)・筆記テスト		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、出席状況、提出物、技術能力判定試験、学力能力判定試験により評価する。</p>			
<b>【授業の特長】</b>			
<p>実習を基本形式とし、講義を適宜取り入れる。</p>			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	美容学科 1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※シャンプー&ブロー	63時間/21回	※林 拓也 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
サロンの実践的技術を導入し、サイドシャンプー、バックシャンプーともに20分で仕上げることを目標とする。サロンで需要が多くなってきているヘッドスパ技術も習得する。			
<b>【授業内容】</b>			
サロンワークを踏まえ、サイドシャンプーの基本的な手順やマッサージ技術を習得する。サイドシャンプーの基本技術をもとにバックシャンプー技術へと繋げる。最終的に、ハンドブローやヘッドスパ技術まで理解する。			
<b>【授業計画】</b>			
1	シャンプー台の使い方 お通し～ひざ掛け～クロス掛け～プレーンリンス～掃除の説明と実践		
	サイドシャンプー プレーンリンス～泡立て～ファーストシャンプーの説明と実践		
	プレーンリンスの説明と実践		
	セカンドシャンプーの説明と実践 ・ブロー技術の説明と実践		
2～10	ファーストシャンプー～リンス・トリートメント～ブローの復習と徹底		
	セカンドシャンプー～リンス・トリートメント～ブローの復習と徹底		
	20分間で仕上げるための技術指導		
	技術能力判定試験と評価解説による課題の提示		
	技術能力判定試験からの課題の徹底		
	バックシャンプー プレーンリンスの説明と実践		
	ファーストシャンプーの説明と実践		
11～18	セカンドシャンプーの説明と実践		
	トリートメントの説明と実践		
	20分間で仕上げるための技術指導		
	技術能力判定試験と評価解説による課題の提示		
19～21	ヘッドスパの説明と実践		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、チェックシートによる2回の技術能力判定試験により評価する。			
<b>【授業の特長】</b>			
実習を基本形式とし、講義・を適宜取り入れる。 担当教員は美容室でのサロン経験をいかし、現場で必要とされるシャンプーとブローの知識、技術、接客力を教授する。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
※総合技術	93時間/33回	※二面 望・※大久保宏光 他	
<b>【授業の到達目標】</b>			
様々な美容の技術に触れ、知識と技能を習得する。オムニバス形式の授業中で、業界に求められている技術を研究する力を培う。			
<b>【授業内容】</b>			
基礎から最新の技術まで、理容に関する幅広い知識と技術を実践を通して身に付ける授業。			
<b>【授業計画】</b>			
1	ヘアショー見学による研究		
2	ビューティーワールドジャパン見学による研究		レポート1
3	レジーナウィッグ講習		
4	ウツミンザーズ講習		
5	メイクデモンストレーション		レポート2
6	カットデモンストレーション		
7	フォト講座		
8	サロンスタイリスト講話		レポート3
9	みらいロケット 講習		レポート4
10	ヘアショーの実践		
11	ライトドライヤー講習		
12	校内技術コンテスト		
13	技コン振り返り・VTR鑑賞「美容道甲子園」		
14	JAPONコンテスト		レポート5
15～16	サロンスタイリスト講話		レポート6.7
17	二重講習		
18	ブライダルデモンストレーション見学		
19	DVD鑑賞・ファッション研究「プラダを着た悪魔」		
20	ヘアショー見学による研究		
21	カラーコンテスト見学による研究		
22	メイクデモンストレーション		
23	カットデモンストレーション		
24	ヘアショーの実践		
25～28	ヘアスタイル制作（美容室ぬばたま）		作品評価
29	ライトドライヤー講習		
30	校内技術コンテスト		
31	国家試験・衛生の取り扱いについて		
32～33	サロンスタイリスト講話		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、1年は7回のレポートを評価し、2年は作品を評価する。			
<b>【授業の特長】</b>			
実習・実技を基本とするが、講義も適宜取り入れる。 担当教員は、サロンワークの経験をいかし、美容室における時代のニーズに合わせた技術や知識をより実践的に教授する。			

# 窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科(2年制)	2019年度	美容学科 1年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
選択実習	66時間/22回	佐々木 久仁江 他	

## 【授業の到達目標】

- ・ネイル～JNEC主催ネイリスト技能検定3級合格を目標とする。
- ・スタイリスト～サロンの現場を主体とした実践的技術の習得を目標とする。
- ・ヘアアレンジ～アップスタイリングの基礎技術の向上及び、応用技術の習得を目標とする。
- ・ヘルスビューティ～心身の健康について、運動との密接な関係性を学び、維持増進を図ることを目標とする。
- ・メイク2級～よりテクニカルなメイク技術の習得と、メイクアップ検定2級取得を目標とする。
- ・サロンスタイル～カットの基礎技術から質感を学び、サロンで求められる基盤作りを行うことを目標とする。

## 【授業内容】

各コースとも1年次より興味のある分野の技術を専門的に習得する。実践的に学ぶことにより、多くの発見をさせることで視野を広げていく。

## 【授業計画】

	ネイル	スタイリスト	ヘアアレンジ	ヘルスビューティ	メイク2級	サロンスタイル
1～14	講義 テーブルセッティング ファイリング、プッシュャーテクニック カットスタイル プッシュャーテクニック ニッパーテクニック ブラシダウン・ガーゼ フラワーのアート ポリッシュ塗布 検定対策	シャンプー概論 シャンプー実践 ブロー概論 ブロー実践 デザインパーマの実践 ヘッドスパ実践				
15～22	ヘアアイロン・ホットカーラー 編み込み・ブレード ハーフアップ 夜会巻き 和風アップ 四つ編み エクス編み サロンデモ 作品制作	栄養学 トレーニングと健康 化粧品成分 アロマセラピー ホテリエステ ダイエット学 骨格矯正 タイ古式マッサージ	修正メイク ベースメイク・艶メイク 話題メイク 女性像をつくる メイク検定2級模擬練習	ジオトリックカット Sportyな質感カット Masculineな質感カット Feminineな質感カット Dressyな質感カット スタイリング理論 メンズカット		

## 【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、下記内容により評価する。

ネイル～出席70%・ネイル検定3級合格否30%	ヘアアレンジ～出席70%・作品評価30%
メイク2級～出席70%・メイク検定3級合格否30%	他の選択科目は出席状況

## 【授業の特長】

実習を基本形式とし、講義・演習を適宜取り入れる。

## 成績の分布表

《美容学科》

○●●●●年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	●●科	学年	1学年	学生数	●●	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50～60点	60～70点	70～80点	80点～90点	90点～100点
人数	●人	●人	●人	●人	●人	●人
下位1/4に該当する人数 ●人						
下位1/4に該当する指標の数値 ●●点以下						

# 成績評価に関する基本指針

## 美容学科

### 【目的】

シラバスに授業の内容、到達目標、成績評価の方法を記載し、学修成果として各授業科目の評価を行い、厳格かつ適正に単位を与えている。

学業成績は、授業科目ごとに行う試験(定期試験・実技試験等)によって評価される。

履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)し、

その結果を指標の数値で分布している。

成績の分布表は、科目ごとに学生の授業理解度を把握し、一定基準を下回る学生への指導、留年・退学の警告、優秀者の選出、及び教員の授業内容や方式の改善等を図るための資料として利用する事を目的とする。

・下記成績分布表参照

○●●●●年度

客観的な指標の算出方法						
☆						
学科名	●●科	学年	1学年	学生数	●●	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50～60点	60～70点	70～80点	80点～90点	90点～100点
人数	●人	●人	●人	●人	●人	●人
下位1/4に該当する人数 ●人						
下位1/4に該当する指標の数値 ●●点以下						